

2019 年度

ハーフターム ケンブリッジ大学研修 生徒報告書

2019 年 5 月 25 日から 6 月 2 日



Rikkyo School in Cambridge Programme
May half-term 2019

date	day	am	pm	meals
5 月 25 日	Sat		Leave Rikkyo: 2:30 Arrive at KC	夕 ME
5 月 26 日	Sun	Free time	3:30 Evensong (King's College Chapel)	朝 ME 昼 夕 ME
5 月 27 日	Mon	Welcome to Cambridge (日本語)	Punting	朝 ME 昼 KC 夕 ME
5 月 28 日	Tue	English lesson	Fitzwilliam Museum	朝 ME 昼 x 夕 KC
5 月 29 日	Wed	English lesson	Polar Museum Formal Dinner	朝 ME 昼 x 夕 ○
5 月 30 日	Thu	English lesson	Japanese Culture -茶道 :5-6 人 -津軽三味線 :3-4 人 -生け花 :10-12 人	朝 ME 昼 KC 夕 KC*
5 月 31 日	Fri	English lesson	Museum of Classical Archaeology	朝 ME 昼 X 夕 ME
6 月 01 日	Sat	Free time/ Preparation Japan Day	Free time/Japan Day	朝 ME 昼 X 夕 KC
6 月 02 日	Sun	Check out at 10:00am	Leave Cambridge: 1:30pm Arrive Rikkyo by 5:00pm	朝 ME

*Table manner at Fellows' Dining Room on Wednesday or Friday

ME: Murray Edward College, KC: Kaetsu Centre

* Special night – Tsugaru Shamisen mini concert & Talk by Hibiki Ichikawa

一川響 津軽三味線&トーク

「ヨーロッパでただ一人のプロの津軽三味線奏者として」

List of the students (Half-term in Cambridge) 25 May to 2 June

H1-1	2	足立 堅	ADACHI Ken	M
H1-1	3	安藤 慧	ANDO Kei	M
H1-1	9	笠井 涼乃心	KASAI Suzunoshin	M
H1-1	21	樋田 碧	TOITA Aoi	F
H1-2	1	朝倉 玄造	ASAKURA Genzo	M
H1-2	18	酒井 航太郎	SAKAI Kohtaro	M
H2-1	1	相原 壮吾	AIHARA Sogo	M
H2-1	4	太野 絢也子	FUTONO Ayako	F
H2-1	5	後藤 理佳	GOTO Rika	F
H2-1	6	蜂須賀 萌	HACHISUKA Megu	F
H2-1	9	石川 ゆほ	ISHIKAWA Yuho	F
H2-1	16	大矢 実穂	OYA Miho	F
H2-1	17	品川 夢香	SHINAGAWA Yumeka	F
H2-1	19	渡邊 慧	WATANABE Satoshi	M
H2-1	20	吉岡 美緒	YOSHIOKA Mio	F
H2-2	6	久保田 叶夢	KUBOTA Tomu	M
H2-2	7	松香 夢珠	MATSUKA Yumeju	F
H2-2	11	小沼 美希子	ONUMA Mikiko	F
H2-2	12	佐久間 悠生	SAKUMA Yuki	M
H2-2	16	田中 遥香	TANAKA Haruka	F
H2-2	17	田中 祐太郎	TANAKA Yutaro	M
H2-2	18	鵜野 太輔	UNO Taisuke	M

Male 11

Female 11

Teachers

関口 萌
市川 公平
小林 誠

SEKIGUCHI Moe
ICHIKAWA Kohei
KOBAYASHI Makoto

F
M
M

(25 to 29 May)
(29 May to 2 June)

ケンブリッジ研修を通して

高等部 1 年 足立 堅

この度、私は、ケンブリッジ大学の研修に参加したことについて、報告したいと思います。まず、私は、イギリスの中でも、1 流の大学と呼ばれるケンブリッジに、とても興味があるため、この研修に応募しました。そして、この研修で、ケンブリッジについて初めて知ったことがたくさんありました。例えば、ケンブリッジは 31 のコレッジによってできていること、大学と、大学院によって、イギリス人の生徒数とその他の国の生徒数の割合が異なることや、創立当初は男子のみしか入れなかったことなどです。この研修では、それ以外にも、様々な面からケンブリッジ大学を、体験することが出来ました。ケンブリッジ大学にある、たくさんのコレッジを、歩いて見て回ったりしたこともそうですが、やはり、1 番ケンブリッジを体験できたのは、マリーエドワーズコレッジに 1 週間寝泊りして、そこで学生と同じ食事を出来たことです。何ととっても、ケンブリッジの中で過ごして、その環境を味わえたことが、ケンブリッジを体験したことで重要なことでした。しかし印象的だったのは、テム川でのパンティングです。ケンブリッジ周辺を小船でゆったりと回れたうえに、ケンブリッジの街にある様々なコレッジを川から見る事が出来ました。なにより、パンティングは初めてだったので、とてもよい経験となりました。勿論、遊びだけではなく勉学にも励みました。コレッジの 1 部屋を使い、英語を使った授業を 4 日間にわたって受けることが出来ました。そこで、イギリスの食文化、1 年間それぞれの季節によって行われる行事や歴史について学ぶことが出来ました。歴史のとは具体的に、スコット隊とアムンセン隊の南極点到達までのレースです。そして、その間にスコット隊に起きた悲劇やその要因について、博物館にも行って、プレゼンも行いました。もう 1 つは、フィッツウィリアム美術館とローマ帝国とイギリスとの関係について、特に、皇帝ハドリアヌスについて調べ、こちらも同じくプレゼンを行いました。プレゼンを作るのには、夜の時間も使うなど、出来るだけフルに使ったため、努力した甲斐のあるものとなりました。勉強の後は、息抜きのついでに街に出て、買い物をしたり、軽く飲んだりしました。夕食までのこの時間は私にとってよい休憩時間となりました。授業数が少ないとはいえ、プレゼンの準備、日記などを付けていると案外、時間が早く感じられます。そんな私たちにとって、街へ出かけたこともまた一つの楽しい思い出となりました。ちなみに部屋や寮でも立教とは違い携帯や、インターネットがあったため、プレゼンの準備なども思ったよりも順調にすすめることが出来ました。このように、私は今回のケンブリッジ研修でさまざまな経験を得ることが出来ました。このイギリスという地にいるからこそ、このような体験を日本にいるよりも容易に出来るため、改めてケンブリッジ大学だけでなく、この立教英国学院の良さと素晴らしさも実感することが出来ました。夏休みは、ロイヤルグラマースクールへ短期留学に行くことが出来るため、是非この短期留学も今回の研修で得た経験を生かして、自分にとってよい経験にしたいと思います。

ケンブリッジ大学への研修を終えて

H1-1 安藤 慧

立教英国学院から、ケンブリッジ大学への研修は2019年度のハーフタームを全て使って行われました。今回の研修は立教英国学院で記念すべき第一回目であり、また同じく自分自身にとっても初めてのケンブリッジ大学への訪問でした。参加したのは現高校二年生と一年生で、全員で20人を超える大規模な研修となりました。この報告書では時系列順にケンブリッジでの生活を振り返りながら感想を述べていきます。

ハーフタームが始まり、実家に帰る人、ホームステイに行く人、そして私たちケンブリッジ研修に参加する人が一斉に立教英国を去ろうとしていました。常に私がこの光景を見て感じることは、学び舎でもありそして第二の家であるこの学校から去ることへの悲しみではなく、外の世界へ復帰できることへの喜びです。ですので、私は強烈な好奇心と期待を持ちながら、ケンブリッジ行きのバスに乗り込みました。二時間半の道のりは大半を睡眠に費やしてしまったので単調なイギリスの景色をじっくりと眺めることは残念ながらできませんでした。ケンブリッジに着く直前から眠気が覚めて街並みを観察することができたのは、僕に長いドライブへの満足感を少し与えました。ケンブリッジは由緒ある、大学によって栄えている町です。よく“オックスブリッジ”と言われるように、オックスフォードとケンブリッジのイギリスを代表する二つの名門大学の一つです。

（ちなみに我が校でECの教員をなさっているホップウッド先生はオックスフォード卒なので“ケンブリッジはオックスフォードに及ばない！”といつもおっしゃっておられます。）



バスからの景色

今回私たち一行が宿泊した場所は、嘉悦センターと呼ばれている日本の企業、生徒向けの研究所の宿泊施設で、このセンターは **Murray Edwards College** というケンブリッジ大学を構成している学校の一つのひと区画にあります。嘉悦センターに到着した私たちはまずこれから一週間を過ごす自分の部屋に荷物を運び入れ、そのあとすぐに夕食を食べに向かいました。ここではこれから一週間お世話になるオーガナイザーの **Peter** さん、**Hiroko** さんに迎えられました。このセンターには食事を食べるスペースが設けられていないので、研究に使われる一室を使って夕食をいただきました。そしてこの夕食こそが、私が立教を出発するときに抱いた好奇心と期待に応えてくれるものであったと思います。嘉悦センターには3人の日本人シェフが働いており、彼女らは日本人を含めたお客様に真の日本の味を提供してくれます。そんな彼女らが私たちに夕食を作ってくださったということは、、、おいしくないわけがない！ という僕を含め、生徒全員の勝手な信念を完全に証明してくれたのは新鮮な千切りキャベツの上に輝くエビフライでした。一口食べると、頬がこぼれ落ちました。涙が出ました。そして不思議な達成感に包まれました。常日頃立教英国で食べる日本食（いや、このエビフライを食べてしまったあとではそれすらもあやふやになってしまいます。）から離れてここまでおいしい食事が得られることに驚きを隠せないのは僕だけでなく、研修に参加した生徒全員でした。特に **Yumeka** さんの喜びっぷりは子供がクリスマスプレゼントを開けた時のようで、生徒全員の喜びを倍増させました。しかもこの食事が一週間を通してほぼ毎日食べられるという事実に対して、めまいを起こさないのは不可能です！ 振り返ると、初日は何とも美味しい一日であったと思います。



今回宿泊する嘉悦セン
ターがある Murray
Edwards College



初日の夕食

次の日午前八時半に目を覚ました直後の私は、自分が今どこにいるかはっきりと把握できていませんでした。まだ立教にいるかのよう。しかし鐘のけたたましい音が

ないせいか、どこかすがすがしい気持ちで朝を迎えられ、また意識がはっきりとしてくるにつれて自分が昨日したこと、感じたことの記憶が鮮明によみがえってきました。今自分はケンブリッジにいるのだぞ、と。そんな実感にどっぴりと漬かりながら自分の携帯に目を向けると、沢山の到着メッセージが届いているのがわかり、また一つ、立教での生活との違いに新鮮味を感じました。この日は日曜日ということもあって、九時からの朝食というかなりのんびりとしたスケジュールから始まりました。朝ご飯はフルイングリッシュブレックファスト（文字にすると長いですね。）、ヨーグルトとフルーツ、そしてペーストリーといった何とも豪華で、まるで昼ご飯のようなメニューでした。午前中は、といっても朝食が終わったのがほぼ昼に差し掛かろうとしている時間だったので、特に特別なことはなく、ただケンブリッジの街を少し散策しただけでした。しかし昼までの短時間でもぎゅっと実の詰まった経験ができたのは確かです。

ケンブリッジの街中に嘉悦センターから行くには十五分ほど歩く必要があります。街中に近づくにつれて建物の古さは増していき、そしてテム川を越えるとそこにはイギリスの名門大学を代表するにふさわしい景色が広がっていました。芝生に寝そ



べる人々、カフェで日曜の午前中を満喫する人々、マーケットで散策をする人々、なぜかそこには“勉学”といった言葉は似合わない雰囲気は充満していましたが、皆洗練された、教養のある生き方をしているように見えました。

キングスカレッジチャペルへの入り口

散策中に発見したことが何個かあります。まず、ケンブリッジは国際的な大学であるためか、街には普段以上のインディアン、中華、日本食、韓国、ドイツなどのレストランが点在していました。そして二つ目に、観光客が多いということです。有名な観光スポットでは中国人かヒスパニック系の観光客がごった返しており、また彼らはグループで行動するため大声でしゃべり、この由緒あるケンブリッジの雰囲気を乱しているのではないかと心配になりました。でもよく考えてみると自分たちもグループで行動して観光地に向かい、何かハプニングがあれば大声ではしゃぐといったことを日常茶飯事的に行っているのです。大差ないですね。これも発見です。

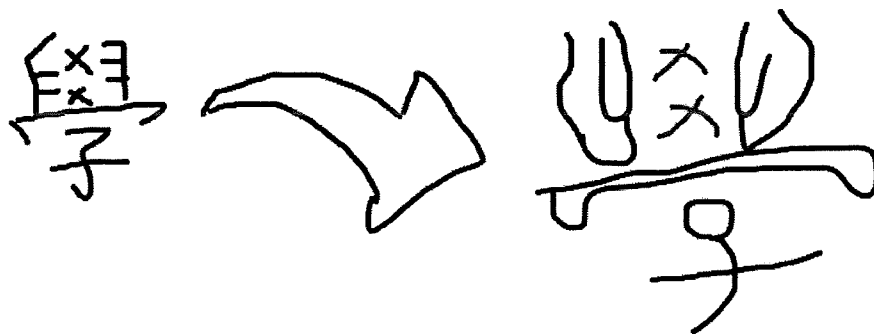
午後の行事は諸事情で省略しますが、上の写真にもあった通り、キングスカレッジチャペルに行き礼拝を受けてきました。



チャペル内はカメラ使用禁止のため入前の私たち

そろそろケンブリッジの生活にも慣れ始め、そのタイミングで授業が始まりました。そもそも本来の目的は「研修」であって「観光」ではないのです！ 授業は3～6日目の毎午前中に行われました。すべての授業を報告すると気の遠くなる作業が必要なので、自分が最も興味を持った授業を選んで報告したいと思います。大体が英国人の講師によるイギリスの説明であったり、ケンブリッジの説明であったりしたわけですが、その中でも Hiroko Roberts-Taira さんのケンブリッジ大学の講座が最も僕の心をつかみました。

Hiroko さんはもともと日本で育ったのですが、夫の Robert さんとの結婚を機にケンブリッジにわたりました。そこで日本でそうであったように、ケンブリッジでも日本語の教師として働き始めます。しかしなかなか思った通りに生徒が伸びてくれず、Hiroko さんはケンブリッジの大学院でもう一度教育について学びなおしはじめました。そこで学んだ沢山の事のほんの少しの浅い上層を私たちに共有してくれたわけです。Hiroko さんはケンブリッジと日本の大学の違いをこの授業で説明してくれました。彼女は二つの大学を比べるときに、「学」という漢字を用いられました。



赤の矢印は生徒と師匠の意見の交換

学び舎の屋根の下に生徒がいる



もともと「学」という字は「學」という字でした。Hiroko さんはケンブリッジを漢字の「學」で、日本の大学を漢字の「学」であらわそうとしました。「學」という漢字があらわすことをそのまま言うと、両手がクロスしている線を囲み、屋根の下には子供がいる、といった具合です。「學」の上の部分にある手は師匠のもので、クロスしている線は師匠と生徒の間での意見の交換を表しており、子供と屋根は学び舎です。もともとの漢字には本来の学びに対する意味が込められていますが、こ

ここで HIROKO さんが日本の学びをあらわした漢字である「学」を見てみましょう。

「學」とは違って上の部分が省略されています。画数は格段に減りましたが本来の意味がここからは読み取れません。この「学」と「學」の違いを日本とケンブリッジに当てはめてみるとそれぞれの違いも浮き彫りになります。つまり日本の教育の仕組みは「学」と同じで本来の学びの意味、生徒と教師の意見の交換の大切さが失われており、教師が一方的になりがちだということです。それに比べてケンブリッジでの教育は「學」、つまり生徒と教師との間に深いかかわりがあり、対等に話せることができるということです。この「學」の教育の仕組みはさらなる多様性を与えると HIROKO さんはおっしゃり、また今の日本の教育にかけていることだと指摘しました。僕はこれを聞いて深く感銘を受けました。

授業がある間でも、午後は観光する時間が設けられます。大体が博物館でフィールドワークイッシュなことをするわけですが、たまには自由時間も設けられます。その時間ではショッピングをしたり、カフェに入ったりして皆なるべく立教ではできないようなことをして過ごす傾向にありました。しかしフィールドワークも決して生徒にとって、ただのつまらない行事と化していたわけではありませんでした。例えば、私がこれは面白い！と思った博物館があり、それは5日目に行った Polar Museum です。ケンブリッジには名門大学ということもあって色々な歴史的、科学的貴重品が集結しており、そのため町の中には類を見ないほど多くの博物館が存在します。その一つが Polar Museum です。雨の中を歩くこと約三十分、こじんまりとした建物が少し町から外れた場所にありました。中に入って天井を見ると、上には二つドームがあり、一つには世界地図、もう一つのドームには北極の地図が描かれていました。この博物館には、どのようにして人類が北極、そして南極にたどり着いたかを展示していました、が、私が興味をそそられたのはそれらの展示ではなく、北極近くに住んでいた現住民族イヌイットが持っていた芸術に関しての展示でした。生憎写真はないのですが、曲がりくねった線たちが絶妙に並びあい、動物たちを生き生きと抽象的に表現しているところに感激しました。衝動的に博物館のショップでイヌイットアートのはがきセットを買ってしまったほどです。午前授業、午後はフィールドワークというようなスケジュールをこなしながら、あっという間に一週間は過ぎていきました。途中プレゼンテーションを生徒と先生の前に立って行ったり、オリジナルの詩を書いたり、生け花をしたり、いろいろな味の濃い、実の詰

まった経験をしました。残念ながらすべての情報を報告することはできませんが、どれも目を大きく見開き、耳をかつぽじって聞いていないと、聞き損ねた時に後悔するものばかりでした。

Polar Museum



今回、私が行かせて頂いたケンブリッジ研修について報告いたします。

今回僕たちが泊まらせていただいたところは、Murray Edwards College の嘉悦センターというところでした。この嘉悦センターで僕たちは、ピーターさんとひろこさんとアダムさんに協力していただきました。

まずはじめに、僕がひろこさんから聞いたことについて述べたいと思います。ケンブリッジ大学というのは、ケンブリッジ大学という建物があるわけではなくケンブリッジという街の中にあるコレッジをすべて含めてケンブリッジ大学というそうです。このケンブリッジ大学は1209年に創立されました。ケンブリッジ大学のコレッジはすべてで31個あり、2017年の段階で学部生が約12800人、大学院生8500人、合計で21300人もの生徒がいるそうです。これまでにケンブリッジは、196カ国中180カ国以上もの国々から卒業生を輩出しているそうです。

学部生の生徒はほとんどがイギリスに住んでいる方々で他にもEUなどからも来ているそうです。ですが、大学院生になるとUKの方々がもっと少なくなり、EUや他の国々からの人たちが多くなるそうです。出身国の学生数が一番多い国は中国だそうです。日本人の方で学部生は約2%しかいませんが、やはり学院生の方は約25%ととても沢山の方々が留学をしています。

そして、今回のケンブリッジ研修では色々なことについて学ぶことが出来ました。どんなことについて学んだかという、プレゼンテーションのやり方や英国の歴史などについてです。具体的にどのような授業をしたかという、僕たちのためにケンブリッジの先生方が来てくださいました。最初の授業ではプレゼンテーションのやり方について教えてもらいました。どのような授業だったかという、まずプレゼンテーションをするときの基本的なことを分かりやすく教えてくださいました。

たとえば、自分が調べたものを発表するときの態度や声の出し方を教えてくれました。

そして、プレゼンテーションするために南極という一つの課題が出せれさらにその3つの中から選びその一つを調べて発表するというのをしました。このプレゼンテーションをするときに二つのグループに分かれて調べました。僕のグループでは南極の生き物について調べました。

この日の午後には、嘉悦センターから20分くらい歩いたところにある小さなミュージアムに行きました。そのミュージアムには南極のことについての物が展示されていました。動物についてはあまり展示している物がありませんでした。そして、このプレゼンテーションは言われたことすべては出来ませんでしたが、いくつかは言われたことも気をつけながら出来ました。

他にも古代ギリシャのことについてもプレゼンテーションをしました。

毎日の授業はとても楽しかったですし、ケンブリッジなのどのことも学ぶことが出来ましたし、とても貴重な体験が出来ました。嘉悦センターの料理はとてもおいしかったです。そして、ケンブリッジの設備はとてもよく、勉強にも集中できるだろうなと思いました。

今回のケンブリッジ研修でケンブリッジ大学に興味がわきました。そして、今回のこの貴重な体験を活かしていきたいと思います。

このハーフタームに私が参加させて頂いたケンブリッジ研修について報告します。

私達はケンブリッジの郊外にあるマリーエドワードカレッジの嘉悦センターに1週間滞在しました。ここからケンブリッジの中心まで行くのには歩いて20～25分かかります。途中には坂もあるので、軽い運動になりました。

授業では、イギリスの文化や私達が行ったミュージアムの予習などをしました。

イギリスの文化の授業では、年間行事や食文化などについて学びました。食文化の授業では実際に先生が食べ物を持って来てくださり、試食しながら授業を進めました。私が特に印象に残ったものはスコットランドの伝統料理であるハギスで、その独特な儀式について関心を持ちました。また、ハギスはウイスキーのおつまみのような役割もしているため、とても味が濃かったのも印象的でした。年間行事について学んだ授業では、チーズレースという行事に衝撃を受けました。この行事は200年の歴史を持つお祭りのようで、毎年沢山の人が参加するようです。

私達は3つのミュージアムに行きました。生徒は班ごとのプレゼンテーションに向けて、事前に決めたそれぞれのテーマに沿って調べ物をしました。1つ目に行ったミュージアムはPolarMuseumというミュージアムで、南極や北極の歴史や、有名な探検家について学びました。私の班では、南極の自然動物をテーマに調べ物をしていたので、主に動物についての展示を見ました。その結果、南極にはアザラシ、ペンギン、シャチなどの動物がいるということが分かりました。後日行ったプレゼンテーションでは私はアザラシについての発表をしました。パワーポイントは先輩方が作って下さったものの、自分のパートの原稿は自分で書いたもので、英語がうまく伝わるか不安でしたが、無事終了できたので安心し、次のプレゼンテーションに向けての問題点なども意識することができました。

2つ目に行ったミュージアムはFitzwilliamMuseumというミュージアムです。ケンブリッジ市内にあるこのミュージアムは自分が想定していたよりもかなり大きくて驚きました。このミュージアムではローマとギリシャの歴史についての調べ物をしましたが、その他にも様々な展示がしてあって、興味深かったです。中でも、現代アートのような作品を展示しているコーナーには、推理小説のような面白さがありました。このミュージアムで学んだことについてのプレゼンテーションでは、前回の声が小さいという反省点を生かして、より多くの人に聞こえやすいプレゼンテーションが出来たとおもいます。

最後に行ったミュージアムは大学の中にありました。このミュージアムには有名な像のレプリカが置いてありました。

最後に、私が今回学んだ1番大きなことは、先輩との人間関係についてだと思います。今回のケンブリッジ研修に参加した女子は、私以外全て1つ年上の先輩方でした。今まで私はあまり積極的に人間関係を築こうとはしていなかったので、先輩しかいない、という状況は私にとっては大問題でした。だから最初はビクビクしていたのですが、いざ勇気を絞り出して話しかけたりしてみると、先輩方全員が同学年のクラスメイトのように私のことを1人の人間として尊重して下さい、ととてもありがたかったです。だから私もこれからは、人に対して積極的に関わる努力をしなくてはならない、と感じました。

「ケンブリッジ研修活動報告書」

H1-2 朝倉 玄造

研修内容

- ・ ケンブリッジ大学の紹介
- ・ 英語による授業
- ・ 博物館見学
- ・ ケンブリッジの街並みの体験
- ・ 日本文化体験
- ・ その他の生活

今回の研修は、それほどの多くの予定が詰まっておらず、比較的ゆったりと研修を行うことができた。

英語による授業では、英国人の先生が毎日違うテーマを最初に行う。例を挙げると、英国王室について、英国文学、イギリスの食文化についてなど、さまざまなテーマを行った。また、そのテーマに伴った博物館・美術館にいき、そこで資料や情報を集めた。その集めた情報を使用してパワーポイントを作成し、それをグループごとに発表していった。

ケンブリッジの街並み体験では、カム川でのパンティング体験、ケンブリッジの中心部の街でのショッピングや食事、ケンブリッジのキングスカレッジでの礼拝などの体験をして過ごした。

日本文化体験教室では、生け花、茶道、津軽三味線があり、特に津軽三味線ではヨーロッパ唯一のプロの津軽三味線演奏者である方に教えていただだけ、また生け花や茶道も一から教えていただけるプログラムとなっていた。さらに、夜には津軽三味線の演奏会もありプロの音なまで聞くことができた。

寮の生活は、朝と夜の食事を寮で食べ、時々昼も寮の食事を取っていた。

朝の食事はマリーエドワードカレッジでイングリッシュブレックファーストをとり、昼と夜はかえつセンターの食堂で日本人の方が作ってくださる日本食をいただいた。

また、寮生活以外にも空いた午後の時間は、ショッピングやスポーツ、散歩など人それぞれの過ごし方で生活していた。

僕は、ケンブリッジはとても伝統的でありながら自由な雰囲気があると感じた。学校の校舎や街並みはとても伝統的で歴史を感じることができた。大学内外ともに色々な国の人がおり、世界から認められ、世界から注目されているのを感じた。

大学のシステムもとても興味深く、中でも一番興味深かったのは『チューター』というシステムだ。大学の先生・教授に一对一で質問ができ分からなかったところや、深めたいところなどを質問でき、とても効率的で学びを深められるシステムが整っているのを知ることができた。

ケンブリッジ研修のプログラムでは、英語で学んだことを自分で情報や資料を集め、まとめ、パワーポイントを作成して原稿を作り発表する。というのがとても大変だった。あまり発表をしたことがなくパワーポイント作りにてまどい、また、英語で原稿作りをしなけ

ればならないためそこでもとても苦戦した。発表の出来はまずまずだったが良い体験になったと感じた。他にも日本文化の体験では、イギリスという海外の地で日本文化を体験するという不思議な感覚だったが、自分の知らない日本文化もありとても楽しむことができた。また、日本国内から日本文化を発信するのではなく現地で日本文化を海外の人に体験してもらおうと活動している人がたくさんいることにとても驚かされ、自分も日本の文化を発信していける人の一人になればいけないと感じた。最後に、僕が今回最も幸せだったことは、かえつセンター食事だ。毎食何が出るのかを楽しみにしていた。こんなに美味しい日本食を頂けたのも海外で日本のことを広めようと思っている人がいたからできたことだったと思う。なので、海外にいる日本人の一人として海外で活躍する人の一員になればいけないと改めて感じることでできた研修だった。

今回、僕が行ったケンブリッジ研修では、色々なこと体験しました。行く前は、あまりどういう事をしたりするのか分からず少し不安でした。着いた初日は、夕食を嘉悦センターで食べて終わりましたが、その日本食のおいしさには、びっくりしました。次の日は、キングスカレッジチャペルで礼拝をしました。チャペルは、大きくてきれいだしステンドグラスもきれいでした。礼拝では、歌声がきれいでびっくりしました。三日目は、ひろ子さんからの「Welcome to Cambridge」と言うケンブリッジの説明がありました。午後は、パンティングがあり、初めてだったのでどういのかわくわくしながら乗ってみると乗り心地はまあまあ良くて、背景もきれいでした。途中、雨が降ってしまったことが少し残念でした。次の日は、初めての授業がありました。火曜日の授業では、Polar Museum のことについて前もって学びました。午後は、午前中にすこし学んだ Polar museum に行った。ミュージアム自身は、小さくすぐ回れました。このミュージアムは、キャプテンロバートファルコンスコットの英国の探検隊とアムンセンのノルウェーの探検隊が南極に到達で競争していてアムンセンのノルウェーの探検隊が先に着いたことなどについてがありました。僕的には、イギリスにいたので英国探検隊のキャプテンロバートファルコンスコットが勝ってほしかったです。水曜日も午前中は Fitzwilliam Museum のことを学んでから、午後にそこに行きました。そこは、Polar Museum と違い大きく手、いろいろなものが置いてありました。ミニ大英博物館みたいな感じでした。中の作品には、いろいろな国の美術品や古代エジプトに関係したものや古代ギリシャやローマの石像やヨーロッパの家具や時計、磁器もありましたが磁器は、なんとにほんの物もありましたもありました。僕が一番印象に残っているのは兵器庫でした。ヨーロッパの鎧や武器が展示してありました。でも、やっぱり美術品が一番多かったと思います。この日の夕食は、普通とちょっと違って Formal Dinner でした。立教みたいにスープの後にメインが来て最後にデザートと言う形でした。でも、ここでは最後にコーヒーも出ました。立教と違うのは、これとテーブルマナーがもうちょっと厳しくて、席も男子、女子、男子、女子という並び方でした。そして、立教よりもおいしかったです。次の日は、この前に行った、二つのミュージアムについてのプレゼンテーションがありました。プレゼンテーションは、二つのグループに分かれて、どちらも人物を調べました。午後は、三つのジャパニーズカルチャーに分かれて学びました。茶道、津軽三味線、いけばなの三つで、僕は生け花にしました。生け花は、人数が多くロビーでやりました。僕は、このような花を飾ったりはしたことないのでうまくできるか心配しましたが、やってみるとひろ子さんの説明がうまくて、分かりやすかったので案外うまくできたと思いました。夜は、ヨーロッパでただ一人のプロの津軽三味線奏者として一川響さんが演奏してくれました。僕は、これを聞いてびっくりしました。聞いた中でよかったのは、津軽三味線で海外っぽい曲を自分で作ったやつでした。これらの曲を聞いたり、話を伺ったりして、津軽三味線をやってみたくくなりました。帰る前の日には、立教生のピアノのコンサートがありました。その後に、応援していたチームは、負けてしまいましたが、スクリーンでサッカーも見ました。

今回の研修では、英語を学んだり、生け花をやったり、津軽三味線を聞いたり、ミュージアムに行ったり、パンティングをしたり、色々な体験をしました。良いハーフタームになり、この研修に行ってよかったなと思いました。

今回私は、ケンブリッジで1週間、ケンブリッジ大学について、ケンブリッジの街並み、プレゼンテーションの仕方などたくさんのことを学ぶことができました。また勉強だけでなく、ケンブリッジならではの街並みを体験しながら、班のメンバーと共に自由行動を行ったり、立教では味わうことのできないような豪華な食事など、普段の生活では実現不可能なことをこの研修ですることができました。これからの文章で、研修で何をして何を学ぶことができたのか。また、研修の感想などを報告していきます。

まず私たちは、この研修期間中、ケンブリッジ大学の嘉悦センターというところに宿泊しました。個人的な感想ですが建物内はとてもモダンな作りになっており、部屋自体もビジネスホテルのような作りになっておりとても満足しました。また、電子ケトルやシャンプー、ボディーソープなどのアメニティ、テレビや冷蔵庫もありました。一日目は嘉悦センターで働いている日本人のシェフがおいしいご飯を作ってくださり、本当に感動しました。食後は嘉悦センター内を見学しました。嘉悦センター内は日本をイメージさせるような作りになっており、廊下に生け花や茶室を想像させるオブジェなど様々なものがありました。

ケンブリッジ研修の目玉である授業でしたが、私が想像していたものとは少し違いました。5日間行われていた授業は英語を学ぶというよりは、ケンブリッジと関係のある文化や人物。また、イギリスの文化について英語で学ぶというものでした。そして、授業で話したことと関連している博物館を見学し、自分たちでまとめたものをプレゼンする、というものでした。授業の初日に、良いプレゼンテーションの方法を学びました。グローバル化が進むこれからの社会で、英語を使ったプレゼンする能力は必要不可欠だと思うので、これからケンブリッジの研修に行こうか迷っている皆さんに行くことを私は勧めます。そのような授業の中で特に私が印象に残っている授業は、イギリスの食文化についての授業です。先生が実際の食物を持参し、実際に食べながらイギリスの食文化を学ぶというものでした。これも立教では味わうことのできない貴重な体験だと思うのでとても良かったです。

このケンブリッジ研修では、日本の文化を体験するというプログラムがあり、いくつか種類のあるうちの三味線を私は希望し、今回体験しました。この体験では、有名な日本人の三味線奏者に弾き方を教わり、短時間でマスターした曲を皆の前で演奏するというものでした。私は三味線を演奏することがなかったのですが、プロの方に優しく、そして楽しく指導してもらいミスは連発しましたが演奏することができました。とても貴重な体験だったので皆さんにも体験してもらいたいです。

この研修で私は他の人が経験することのできない貴重な体験をしました。それは、嘉悦センター内のピアノでミニコンサートを行ったことです。ピアノは、ケンブリッジの中で一番いいピアノだそうです。普通は弾くことのできない場所で演奏することができたのは、とても自分にとって良い経験になったと思います。ミスはたくさんしたものの、このミニコンサートを通じて、今回の研修でサポートしてくれた様々な方に感謝の気持ちを伝えることができて良かったです。

このケンブリッジ研修では普段の立教生活では体験することのできない貴重な体験をすることができます。だから私はこの研修をこれからも続けていくべきだと思うし、もっと改善できるところは改善していくべきだと思います。この一週間で得られたたくさんの経験を今後の糧とし、このイギリスという地で様々なことを学び研鑽を積んでいきたいです。

Cambridge 研修 レポート

H2 太野絢也子

私は今回 25 日～2 日まで、立教にとっても私にとっても初めての **Cambridge** 研修に行ってきました。初めてのプログラムなので、どんなところなのかどんな人なのか分からないので勿論不安もありましたが、それ以上に楽しみで仕方ありませんでした。

Cambridge に到着した日の夕食は、嘉悦センターで日本食でした。エビフライ、カルフォルニアロールと普段食べれないものが食べれて、長かったコーチでの疲れも吹き飛びました。

26 日は午後にみんなで **king's college** の礼拝堂に行きました。以前に **H1** のアウテイングで訪れたことがありましたが、中を見ただけでそこで実際に行われている礼拝は見れなかったのととても貴重な体験ができました。

この礼拝で特に印象に残っていることがあります。1 つは **CHOIR** の聖歌です。私も立教で **CHOIR** をやっていますがそれには比べ物にならないくらいきれいな歌声で、広いチャペルに響き渡りました。しかも、男子しか歌っていないことに衝撃を受けました。女の私よりもとてもきれいな、透き通るような高音で聖歌を歌っていて感動しました。2 つ目は、式文を歌のように読んでいたことです。普段私たちは礼拝でチャプレンに続き呪文のように式文を唱えています。そこではチャプレンと **CHOIR** だけが言う部分があって、そこをメロディーに乗せて読んでいたことに驚きました。私はその光景が新鮮に感じられたので、礼拝後に普段の式文をメロディーに乗せて言ってみたりして立教でもこうだったらいいね、なんて話していました。

27 日は夕食後にみんなで散歩がてらスポーツをしました。20 分くらい歩いたところに大きい公園があって、そこでバレー、サッカー、シャボン玉、バスケなどそれぞれしたいことをしました。私はバレーをやりました。男女ミックスでゲームをしたんですけど、経験者や先生も交えてのゆるーい感じのゲームは、あまり話した事がない人と仲良くなるいい機会になりました。散歩している時間は笑顔が絶えませんでした。

28 日は **Cambridge** 研修初の授業でした。

勿論すべて英語での授業でしたが、先生の言っていることに集中して聞いているだけじゃなく自分なりに授業に参加しようとしてしました。理解できていない事をすべて友達に聞くんじゃなくて、ちゃんと自分の言葉で先生に質問しました。

この授業では、木曜日にプレゼンしてもらおうと言われました。二つのチームに分かれて取り組みましたが、準備期間が異様に少なくどのチームもかなり焦っていました。

夕食後にみんなで時間を作って集まり、それぞれトピックについて調べました。私が吾人的に苦労したのは調べたことを英訳する作業でした。あまり英語が得意ではないため、英訳アプリを使ったり同じチームの英語ができる人に直してもらったりしました。最終的には二つ目のプレゼンが授業の時にまだできていない状態だったので、先生にお願い

して準備する時間をとってもらふ事態になりました。自分で英語ができて、自力で添削ができればかなりの時間短縮にもなるし、チームメンバーの負担も軽くなったのではと思います。

当日のプレゼンは無事終わりましたが、もう一つのチームに比べて私たちのチームは全体的にコミュニケーションが足りてないと指摘されました。他にも今後人前で話すときや、何かについてプレゼンするときに生かせる言葉をたくさんもらえました。

この **Cambridge** 研修で体験したことはこれがすべてではありませんが、立教とは違う環境で、初めてのことを英語で聞いたことは新鮮だったし今後の私の人生にとって大きな体験となりました。今回初めてのプログラムで次ができるかは私たち次第という責任はありましたが、とても充実した楽しい一週間となりました。このプログラムに参加できてとても嬉しく思います。

ありがとうございました。

ケンブリッジでの研修は初めてということで、どんなものか予想もつかず、不安と楽しみな気持ちが入り交ざったスタートでした。宿泊させて頂いたところは、Murray Edwards college 中の嘉悦センターという所で、タオルやシャンプー、ドライヤーなどもついた、ホテルのようなとてもきれいな場所でした。私は、Research project があったので、一人部屋に宿泊したのですが Wi-Fi も通っていてとてもはかどりまし、一人には贅沢な部屋の大きさでとても快適に一週間過ごさせて頂きました。到着してすぐに宿泊する大学と嘉悦センターのオリエンテーションをピーターさんがして下さいました。嘉悦センターには東芝やダイソンの開発所が近くにあり研究もされていること、VR での手術の会議と体験会があり世界中から優秀な方々がいらっしゃったこと、大学の土地はもともとダーウィンさんのものであったことなどをきいて、なんだか凄いところに来たんだなと実感がわき、一週間は楽しみにになりました。

ケンブリッジ研修の一日は、朝食、授業、昼食、外出、自由時間、夕食、自由時間、シャワー、就寝 という流れでした。食事は、毎日とてもおいしく、朝食はビュッフェ、昼食は嘉悦センターで日本食かマーケット、夕食は朝食と同じ所か嘉悦センターでいただきました。朝食は自由に何でも取れるので、マナーに気をつけて欲張らず、とり過ぎには注意することを学びました。昼食と夕食はとても美味しくて、日本食をほぼ毎日作って頂き、いつも食事の時間を楽しみにしていました。昼食はマーケットで食べるチャンスも何回もあり、韓国料理、ギリシャ料理などいろいろな国の料理に触れることができ楽しかったです。

ケンブリッジに外出するチャンスは何回もあり、飽きるほど行くことができました。パンテイングではケンブリッジの町並みとたくさんのコレッジを見ることができ、礼拝に参加したときは、コアイヤーの美声と大昔に建てられたとは信じがたいチャペルの美しさに感動しました。

授業は毎日違う先生方がいらして、その日に行くミュージアムの説明と先生の専門分野とイギリスに関連することをプレゼンテーションのスタイルで教わりました。私たちも Polar museum と Fitzwell museum に関してテーマを決め、二つのグループに別れプレゼンをするという課題が与えられ、ミュージアムに行ったときはみんな情報収集に励んで、普段ミュージアムに行ったときの私たちの様子より少しは活気があったのではないかと思います。私は、初めてグループリーダーになり、どうやったらみんなが参加したプレゼンにできるか考え実行に移すことができ自分なりに少し成長できたかなと思います。授業を通して一番学べたのは、先生方の話し方を見て、どんな風に話せば聞き手の意識を引き付けられるかということだったと思います。また、ケンブリッジ大学についての生の声をたくさん聞けて知識も増え、興味を持つ大きなチャンスとなりました。

ケンブリッジ研修では普通では体験できないことに触れ、学ぶことができ、夢のある研修でした。同時に自分の将来を考えるいい機会となりました。

1日目 5月25日

ハーフターム初日。期待と少しの不安を持ってケンブリッジ大学 Murray Edwards College のかえつセンターに向かった。着いてすぐに、私が泊まるドミトリーの説明があった。ドミトリーはとても綺麗で過ごしやすかった。

2日目 5月26日

2日目はバンクホリデーということで、英国人がいなかったため一日自由な時間が多かった。午前中は班で買い物に行きその後、Kings college のチャペルに礼拝を見に行った。クワイヤーの歌声が天井が高くて広い礼拝堂中に響きわたりとても美しかった。

3日目 5月27日

午前中にピーターさんの奥さんにケンブリッジ大学について色々説明していただいた。ケンブリッジは20個以上の college あって、それぞれの寮には様々な学部の人がいると聞いた。ちなみに大学生は全員寮に入らなければならないらしい。また、様々な国籍の人がいて、日本の大学よりも留学生が多いということも聞いた。それを聞いた時に、これはとても良い制度だと思った。なぜなら様々なバックグラウンドをもち、それぞれ別の勉強をしている様々な人々に普段の生活から関われる事でお互いに大学で学べる事以外のことを沢山得られると思ったからだ。それ以外ケンブリッジ大学について様々なことを教えていただいた。午後にはパンティングといってケンブリッジ大学の横を流れる川を船で下った。あいにく、少し雨が降ってしまったがとても気持ちが良かった。その後ご飯を食べて、みんなで公園にいった。公園では、少し散歩をして、やシャボン玉やパレーボールをして楽しんだ。

4日目 5月28日

この日から授業が始まった。授業内容は毎回その日の午後に行く博物館についての内容についてのことだった。この日 Polar Museum にいった。Polar Museum は南極に行くための服や南極動物について細かく書かれていた。そこで見たものやインターネットで見つけたものをまとめてパワーポイントを作って英語で発表をすることになった。もう1つの授業では、俳句にいった。宿題で英語で俳句を考えてくるというのが出された。午後は、パワーポイントの発表の準備と俳句を作る時間に当てた。

5日目 5月29日

この日はイギリスのご飯についての授業で、食べ物が出てきて実際に食べることができてとても楽しかった。先生がとてもフレンドリーで率先して授業に参加できた。そして、この日の午後に行く Fitzwilliam Museum についての説明と、今回もパワーポイントの発表をするために調べたりして準備をした。Fitzwilliam Museum は思っていたよりも広く、様々な絵や歴史的なものも多く展示されていた。私達のチームの発表のテーマであったギリシャとローマの歴史に関するものが詳しく展示されていた。そして夜ごはんは Formal Dinner ということで、しっかりとした食事をとった。テーブルマナーに気をつけた。

6日目 5月30日

この日はパワーポイントでの発表だった。2日間で準備したものをみんなに発表した。英語での発表でとてもドキドキしました。そして、みんなで作った俳句を発表しました。それぞれのチームの発表の仕方に個性が出ていてとてもおもしろかった。その後はイギリスのロイヤルファミリーについての授業で、あまり詳しく知らない家族構成についてよくわかった。午後は日本文化についてで、私は三味線を体験した。初めて触る三味線でとても緊張しましたがすごく集中して頑張ったら少しずつできるようになった。二時間の練習を経て、夜には三味線を練習したみんなで発表をした。私は周りについていくのに必死だったが、とても貴重な体験ができた。

7日目 5月31日

この日の授業は午後に行く Museum of Classical Archaeology についての説明があった。その後はイギリスの祝日についてまとめられた動画みんなで見た。自分の知らないことばかりで知識が増えてためになった。Museum of classical Museum は有名な彫刻のレプリカがたくさん飾られていた。知っているものもあって面白かった。夜は小林先生の娘さんのケンブリッジ大学についての話があった。イギリスの大学の制度やケンブリッジ大学に通う人々の勉強やスポーツに注ぐ情熱の強さに驚いた。

8日目 6月1日

朝ごはんを食べた後にみんなで丘に登ってケンブリッジの街を一望した。天気が良く、すごく眺めが良かったです。その後は少し歩いて DNA が発見されたという場所でごはんを食べた。Fish and chips が出た。立教で出るものよりもおおい、衣がサクサクしていてとても美味しかった。その後はフリータイムだった。最後にケンブリッジを満喫した。そして夜には一週間お世話になったピーターさんの家族やかえつセンターでご飯をつくってくれたスタッフの方々などに感謝を伝えた。とても喜んでいただいてお互いとても良い雰囲気でお終えることができた。

この一週間で英語に自信がないながらもパワーポイントを使つての発表や現地の人とのコミュニケーションを取ることを一生懸命できた。

また、初めて体験するようなことも多かったが率先して楽しみながらも自分にとって良い経験となった。

英語が伝わらなかった時に感じた自分の惨めさをこれからは生かして糧にしていきたいと思う。

今回のこの機会を通して日本人としてこれから海外に出る際に恥ずかしくないように日本についての知識を持ってなければならないと改めて感じた。
また、せっかくイギリスにいるならばイギリスについてもっと深く知るべきであると思った。

貴重な体験をさせていただいてありがとうございました。

ケンブリッジ研修を終えて

高2 石川ゆほ

私は、今回のハーフタームではケンブリッジ研修に参加しました。イギリスならではの大学の雰囲気や校風を味わうと同時に、新たな経験を沢山することが出来ました。この研修の費用は安くはなかったので、最初に行くか迷いました。しかし、折角の機会を逃してしまうのは、後々後悔してしまうと思い参加することを決めました。そして、行く前日は楽しみにしていて、ドキドキとワクワクでいっぱいでした。

ケンブリッジについてからの三日間は、ショッピングやパンティングをしたりキングスカレッジ礼拝堂の礼拝に出席しました。礼拝でのクワイヤーの歌がとても上手で驚きました。そして、ケンブリッジ大学についての説明を受けました。ケンブリッジ大学は沢山のノーベル賞が出ていてすごいと思いました。さらに、イギリスと日本の大学のカリキュラムの違いや受験の仕方などが違うことを知りました。四日目になったら、授業が始まりました。授業は午前中のみで、まず初めに良いパワーポイントの作り方や発表の仕方などを教えてもらいました。そして六日目の授業に発表するためにグループで作りました。テーマはそれぞれのグループによって異なっていたけれど、午後に行く博物館に関連することでした。パワーポイントを作る際はグループで協力して作ったので良いものを作ることが出来ました。しかし、発表をする時に緊張して声が小さくなったり、下書きを見すぎて皆の方向を向けなかったりしてしまい自分の中ではとても不出来でした。しかし、先生は「これは練習だから失敗して良い」言ってくれたので安心しました。そして次はよい発表にしたいと思います。

この一週間の中で私が一番心に残っていることは、一番最初に受けた授業です。内容は、午後に行くポーラーミュージアムについての説明でした。なぜならば、南極に行こうとするスコットとアムンゼンの物語が興味深かったからです。この二人の研究者はどちらが先に南極に辿り着くことが出来るかを争っていました。アムンゼンは、一度行ったことがあり服装や距離に気を付けて行ったため先につくことが出来たという話でした。そして、どちらも氷の間を通ることが出来るように小さい船で行きました。このように、研究者達が南極に辿り着くために様々な工夫をして、人生をかけて必死に行こうとしている姿に心を動かされました。しかし、実際に行ったポーラーミュージアムはすべて見終わるのに五分くらいしか、かからないくらい小さい博物館であり深く知ることは出来なかったもので、今度はもう少し大きな博物館に行きたいです。そして今まで、南極について何も知らなかったもので少し知ることが出来てうれしかったのともっと早くから知って沢山の人から南極について教えてもらいたかったです。

今回のようなプログラムを考え、作り、支えてくれた人々と両親に感謝の言葉でいっぱいです。ありがとうございます。私は一日一日とても充実した生活を送ることが出来ました。この研修によって“イギリスの大学”という新たな道も視野に入れてどこの大学に行きたいかを改めて考えていきたいと思います。

私はこのハーフタームにケンブリッジ研修に参加しました。その時にさまざまな体験をして、たくさんの大切なことを学びました。

一つ目は言語の大切さです。私が立教英国学院に入学したひとつの理由として、英語力の上達が理由のひとつでもあり、この研修に参加した大きな理由が英語にまずは慣れることでした。私たちをサポートしてくださった寮の英国人の方は、少しだけ日本語が話せますが、ほとんどの日本語は知りません。クリーニングレディースもこの学校と同様に英国人の方です。なのでドミトリーにタオルがない場合やトイレトペーパーがなくなった場合に英語でどう対処すればよいか相談しなくてはなりません。そして朝食はビュッフェだったので、係りの方にこれとこれが欲しいと言わなければ、自分が食べたいものも食べられません。最初はみんな見てるし、自分の英語の自信がなくてすごい小さい声で話していました。しかしそれでは相手に聞こえず、困らせてしまう結果になりました。それならば相手に迷惑だし、自分がここに来た意味を思い出して、その次の朝からは元気に笑顔で挨拶からはじめました。英語がおかしな文法になってしまっても身振り手振りで頑張っって伝え、そのときに英国人の方はすごく優しく私の話を聞いてくれようとしてくれました。そのおかげでこの一週間で少しは英会話を恥ずかしがらずに、堂々とできるようになりました。

二つ目は食の大切さです。いつも立教英国学院では毎週二回日本食が夕食に出ます。みんなその日本食の日を楽しみにしています。そしてケンブリッジに着いた日はバスで三時間ほど揺られて、みんなお腹がすいているときの夕食が日本食でした。私たちが泊まった嘉悦センターでは多くの日本人の方が働いています。なので食事を作ってくれた方も日本人の方です。私たちはとても嬉しくて、明日からの研修も頑張ろうと思えるような食事でした。それだけではなくカレッジで食べた食事量も多くて、すごい満腹感で美味しかったですし、この研修はすごく自由時間が多くて、ケンブリッジの街に出てたくさん歩いた後に、美味しい食事を食べるのがすごく良かったです。一番思い出に残っているのは、DNAの螺旋構造を発見したワトソンとクリックで有名のパブで、みんなでフィッシュアンドチップスを食べたことが一番の思い出です。みんなで記念撮影をしたり、近くのマーケットで甘いものを食べるなど、たくさんの食べ物の美味しさを感じました。

最後は人々の大切さです。私たちが今回このケンブリッジ研修という普通の人はいけない研修に参加できたのは、先生方の大きな支えがあります。この計画をしてくだ

さった先生、引率に来てくださった先生がいてくださったおかげでとても心強かったです。そして嘉悦センターで私たちに授業を教えてくださいました英国人の方々、美味しいご飯を作ってくださいました方々、生け花を教えてくださいました方など、この研修を終えて多くの方に支えられて、この研修が充実したものになったんだと感じました。参加して本当によかったと思えた体験は久しぶりで、みんなにこの楽しさを伝えたいです。

私はこのハーフタームにもっと英語が好きになり、食事のありがたみを感じ、この研修に関わってくださいましたすべての人に感謝した素晴らしい研修に参加できました。

ケンブリッジ大学研修報告書

H2-2 品川夢香

私は5月25日から6月2日のハーフターム中に、ケンブリッジ大学の研修に参加し、様々な事学びました。

一つは授業についてです。ケンブリッジでの授業は英語で週に4回ありました。最初の授業ではミュージアムについて紹介していただき午後には実際に授業で触れたミュージアムに行き北極や南極の文化について学び、翌日の授業ではミュージアムで学んできたことをもとにプレゼンテーションを作成し発表しました。最後の授業ではイギリス発祥のスコーンを食べたり、世界の祭りや文化について学びました。立教での授業とは全く異なった形式で学ぶことができいい経験になりました。

授業以外にも毎日ケンブリッジの街に行く機会があり、二日目に行ったキングスカレッジの中にあるチャペルでの礼拝はチャペルがとても広く綺麗でパイプオルガンの大きさに圧倒され、聖歌や賛美歌を歌う合唱団であるクアイヤーの歌声も素晴らしく立教英国学院の礼拝と全く異なっていたので新鮮で驚きました。私はクアイヤーに入っているので声楽の勉強にもなりました。聖書朗読や説教は英語だったので苦労しましたが、自分なりに知っている単語だけで英文を理解する努力をしました。また、三日目に行ったパンティングでは、ケンブリッジで有名な建物や街並みを眺めたり、船を漕いでくれたイギリス人の人と英語で沢山会話をしました。パンティング中に雨が降ってしまい寒かったですが、綺麗な景色を見ながら鴨と一緒にケム川を船で渡っていくのは日本では絶対に出来ない経験であると感じ、更に現地の人達と会話をする事で自分の英語力の低さに驚きもっと勉強しなければならぬと感じました。その他にも六日目には三味線、生け花、茶道と日本の文化に触れられる機会がありました。生け花を選択した私は、始める前は単純にお花を綺麗に見栄えよく花瓶に刺せばいいと思っていましたが、先生の丁寧な説明を聞くときちゃんとお花の長さや大きさに真(しん)、副(そえ)、体(たい)と名前が付けられており、長さのそれぞれ異なった三本の花を使って表現する生花正風体と自由に表現する自由花があると知り、実際に自分の作品を作りました。沢山のお花の中、私はかきつばただけを使ったシンプルな自由花の作品を作りました。先生が教えてくれた事を頭で理解してても、それを実践し作品にするのがとても難しく先生に沢山質問しましたが、人生で初めての生け花で満足出来る作品が出来て楽しかったです。その夜にはヨーロッパで唯一の津軽三味線演奏者である一川響さんの演奏を生で聞き、また津軽三味線の歴史について教えて頂きました。一川さんの演奏はとても素晴らしく感動しもう一度聞いてみたいです。

このケンブリッジ大学研修をして得た事は、ケンブリッジの文化や歴史を知り、たくさんの方々とお話しをすることで英語を使う機会が圧倒的に増えました。

私は中学三年間スウェーデンの現地校に通っていましたが、大学の食堂や先生方のフレンドリーな感じはイギリスもスウェーデンも同じで懐かしく感じ、スウェーデン語ではなく英語で会話をしなければならない事に不安や心配を抱いていましたが、先生や宿泊したKaetsu センターのピーターさんがゆっくり話してくださったので、緊張を解くことができました。ケンブリッジ大学で貴重な経験や新しい知識が増え、日本では絶対経験出来ないさまざまなことを学ぶ事が出来た、充実した一周間でケンブリッジ大学はとても素晴らしい大学だと思いました。

ケンブリッジ研修報告書

2 年 1 組 19 番 渡邊 慧

今回のケンブリッジ研修では、授業やケンブリッジ市内での自由行動などでさまざまな体験をすることが出来た。

授業では、北極にいる動物について調べて発表するということをした。椅子に座って調べるだけでなく、実際に博物館に行き写真を撮ったり、原稿を読んでまとめたりした。また、同じようにローマの皇帝についても同じように博物館に行き調べ、発表した。日本でも自分で調べてまとめ、発表したことはありましたが、イギリスで博物館へ行き、自分で英語を使って発表したのは初めてでした。日本語で発表するのも苦手な上、うまく発音することが出来ないで、前を見て話すことが出来なかった。発表後にはスタッフの方や先生方から英語で改善点や、よたつかたところを言ってもらい、プレゼンテーションの仕方学ぶことが出来た。他には、イギリスの伝統的な祭りや、月ごとのイベントなどを、動画を見ながら知ることが出来た。また、今まで知らなかったイギリスの料理を実際に食べさせてもらい、味についても知ることが出来た。普段受けている授業とは違い、実際に博物館に行き調べたり、授業中に食べてみたりすることで、聞くだけでは学べないものを学ぶことが出来た。

ケンブリッジ市内では、パンティングや自由行動をした。

パンティングでは、15 人くらいで1つの船に乗り、ケム川を通っていろいろな建物を見た。思っていた以上に景色もよく、歴史的な建物や橋を見た。途中で雨が降ったが、とても気持ちよくいい経験が出来た。

自由行動では、同じグループの人たちとお土産物を見たり店に行った。歩いていると大きな教会があったり、日本食の店があり歩いていて楽しかった。

ジャパニーズカルチャーでは、少しギターをやったことがあったので三味線を選択した。初めて三味線を触ってみて、思った以上に重かったことと、一川先生が使っている三味線の値段が 160 万円だということに非常に驚いた。初めに三味線を弾くための基本動作を 30 分かけて教わった後、カントリーロードの練習をした。合計 2 時間かけて練習したあと、ホールで発表した。発表することを練習前まで知らなかったため、とても驚いたが、ある程度完成させることが出来た。本番では緊張して完璧にはできなかったが、とても楽しかった。発表前には 4 曲ほど一川先生の演奏を聞いた。知らない曲が多かったが、中には東京音頭など聞いたことのある曲も

あった。実際にプロに教えてもらってしかもその人の演奏を聞くことができで、いい経験になった。

フォーマルディナーでは、食事のマナーについて細かく学んだ。もともと知っているものもあったが、実際にやってみると難しかったりした。立教でも食事のマナーについて学んだりはしたが、やっていないことも多かった。

これらの体験を通して、イギリスと日本の文化や生活を学べた上、プレゼンテーションの仕方や食事のマナーなど、おもてに出ることについても学ぶことができた。

このケンブリッジ研修で学んだことを、将来生かしていけるようにしたい。

ケンブリッジ語学研修報告書「発見」

高等部2年1組 吉岡美緒

私は、ハーフタームに初めてのケンブリッジの語学研修に参加して、

初日、立教英国からケンブリッジまでは、バスで約3時間程かかりました。学期の前半戦からの疲れからか、それとも思い思いこの研修を迎えるにあたって期待も不安も入りまじっていたからか、バスのなかはとても静かでした。

途中1回のサービスエリア休憩を挟んで到着した「マリーエドワード・カレッジ」は、思っていたより新しい建物でした。玄関の壁には、ケンブリッジの女子寮ともあって、この寮出身で世界のなかで活躍している方々の写真がかけられていると、先生が教えてくれました。

続いて、ロビーにつくとピーターさんという方が暖かい笑顔で私たちのことを出迎えてくれました。そして、初めの1週間過ごすことにあたっての説明として、施設の案内と利用方法を簡単におしえてくださいました。

確か、寮からマリーエドワードに行くときに通過する廊下でのことだったと思います。扉の正面にかけられた絵をみて、どう見ても絵が傾いていたので、ピーターさんに「この絵は、傾いていませんか？」と質問したところ、ピーターさんは「そうだね、教えてくれてありがとう。生徒たちがいつも動かしているから、この絵は毎回いろんな角度にかたむいているんだ。ここにかけある絵は、どれもこの大学の学生達を書いたもので、みんなそれぞれ違う感性をもって、いろんな絵を描いてるんだ。みんな同じじゃないこと、そのことが、素晴らしくて、みんな大切にしていきたいこと。これは、この大学が1番大切だと思っていることだよ。だからこのままにしておこう。」「また明日朝ごはんを食べに行くときに見てごらん」と言ってくれました。

その時、私は、頭をぶん殴られたような感覚に陥りました。

（私、この絵を見ずに、絵をなおすことしか考えてなかった、、・と）私は、とてもはずかしくなりました。

曲がった絵から人それぞれの多様性なんて日本人は単一国家なので出る釘は打たれる的発想で何の疑問もなく育ってきたので無意識の価値観って意識しない間に刷り込まれるなんて思いもしなかったからです。

僕が、このケンブリッジ大学の研修で学べたことは大きくいうと

時間の大切さと考えを述べ伝えることがどれほど大変かということです。

まず、時間の大切さについて具体的に書いていくと人という生物は実は人生がとんでもなく短いことに気づいていないと思います。なぜこのことを思ったのかというと、このケンブリッジ研修は一周間長いように感じましたがあっという間でした。楽しい時間は、早く過ぎ退屈な時間はゆっくり進むというときの流れは時計でしか目に見えませんが、形として時間は目に見えないため腕にある時計に目を走らせるか、ほかのものに夢中になり腕時計に目を走らせないかでその一日を大きく変えます。今回の研修では多くの発見がありました。例えば大学で必要な考え方を更に時間をうまく利用し自分自身を管理すること ケンブリッジの風景 英国人 などなどです。このハーフターム前では得られなかった大きくいうと三つのことが僕自身を夢中にさせたのだと今になって気がつきました。よって僕は腕時計に目を走らせませんでした。そしてなにもかも充実していました。だからこそ時の流れが普段よりも早くなり気づいたら終了していました。

次に、考えを述べ伝えることの大切さについて具体的にかくと いくつかの lesson で指導あったのですが 大学やこれからの人生を歩んでいく上で自分の思ったことを他人や友達先生に伝える 伝えて 自分と他人の違いを見つけ 他人と比べ あっこのような考えもあるんだと 自分自身を 向上させていくことが 大学で求められるようです。その他人と比べるための意見をしっかりと持つために自分の経験や本をたくさん読んで教養を持ちどんどん人と会話をして 多くの刺激を受けることが大切です。そして、ケンブリッジ大学の大きな特徴は学生の半分近くは外国人留学生で 日本の大学と比べたときに日本は外国人留学生の数が多くありません。何故かと考えた末に分かった答えがイギリスやアメリカなどを中心とする外国の大学は diversity を大切にしている diversity を持つことで他の国の意見を聞くことができるしみんなで力を出し合うことができます。力を存分に発揮できるように一人一人が自分で考えを提供するまさに critical thinking といわれる 最初から完璧な理論はないと思うことで自分の意見に恥を持たず積極的に意見を出し合えるということです。そして、学校 学ぶ の学という漢字は昔の字体の意味だと先生の暖かい手と建物に囲まれた子供 学生が先生と意見をだしあう。 そのマークが先生の手の中のバテン 二つだということです。しかし、その漢字も省略化されて先生と子供の意見を出し合う肝心のバテン二つがなくなり今の日本の教育のように 先生が学生にただただ解説しているようにしか見えず意見会話も少なく僕はこの制度を意見を出し合う教育に戻してもらいたいと現在強く思っています。ケンブリッジ大学の lesson は僕たち学生にしっかりと問いかけを与えてくれました。これこそが学校の教育だと改めて思いました。

最後に、このケンブリッジ大学の研修にこれたことで diversity 他人と比べることがどれほど大切なことなのかという基本的なことを学びました。その意見を持つための能力 教養を育むべく まだ、子供であるうちにいろんな資料 新聞を読み刺激をうけて長いようで短い人生を充実したと思えるようになります。この経験は僕の人生においてとても貴重でした。

ケンブリッジ研修

H2 - 2 松香 夢珠

私は、今回ハーフタームにケンブリッジ研修に参加した。

理由は、ケンブリッジ大学にはどんな施設があり、どんな雰囲気勉強できるのか、どんな先生がいるのか、気になったからだ。ケンブリッジ研修は、私にとっても初めての体験だが、学校としても初めての試みだ。なので、先生も手探り状態だった。もちろん不安だった。期待と不安を抱えながら、挑んだ。

いざケンブリッジ大学のマリーエドワードカレッジに着くと、不安より楽しみという気持ちと期待の気持ちのほうが大きくなっていた。中に入ると、何人かの生徒が庭にあるベンチに座ってしゃべっていたり、勉強している生徒もちろほら見られた。今回お世話になった Peter さんに聞いてみると、私たちが行った週は、たまたま試験期間だったようだ。ケンブリッジ研修に参加した理由の一つが早速みられて、嬉しかった。月曜日に「Welcome to Cambridge」の授業があった。Peter さんの奥さんであるひろ子さんが授業をしてくれた。

授業の内容は、ケンブリッジ大学の場所、カレッジの個数、行事のことや、入るためにはどうしたらいいのか、などだった。クイズ方式だったので、緊張していた私には学びやすかった。火曜日は「English lesson」。午後に行く『Fitzwilliam Museum』についての授業だった。南極の動物、ペンギンのことや犬ぞりのことをプレゼンテーションしてくれた。正直、むずかしかった。だけど、プレゼンテーションを聞いたうえでミュージアムに行くと、ある程度はわかった。水曜日の「English lesson」は『Polar museum』についてだった。このミュージアムは、絵や彫刻、エジプトのものがたくさんあった。エジプトが好きな私は、エジプトコーナーから離れられなかった。仮面や棺、心臓とかを入れておく壺とかもあった。セキュリティが頑丈で、ちょっとした作品に手が触れたならすぐに見回りの人が来て、怒られた。木曜日は、今までに行ったミュージアムのプレゼンテーションをした。2つのグループに分かれ、発表した。2日前から私たちは死ぬほど頑張って作り上げたプレゼンテーション。私は、みんなのまえっていうのもあり、緊張で上がってしまい、声が小さくなってしまい、顔をカンペの紙から上げるかとうがでできなかった。それを、審査員の先生方に指摘され、反省し、つぎのプレゼンテーションに生かした。このプレゼンテーションをとして、資料を作る大変さと、いかに大きな声で相手の顔を見て発表する大切さ、そしてグループでのコミュニケーションの大切さを学んだ。金曜日は、ジャパニーズカルチャーがあった。Peter さんの息子もアダム君と娘のきみえちゃんが茶道、正確にはちゃどうを教えてくれた。二人とも着物物が似合っていた。大学では、イタリア人の方が先生として、指導しているみたいだった。お茶のたて方も指導してもらい、改めて茶道のことを異国の地で学んだ。土曜日の午後には、小林先生の娘さんがプレゼンテーションをしてくれた。自分の紹介、大学生活、いまの仕事のことなどを教えてくれた。

ひろ子さんの話や小林先生の娘さんの話を聞いて、海外の大学に行くことについて、考えさせられた。魅力にも気づくことができた。私は、エジプト考古学に興味があり、将来それ関係の仕事につけたらと思っている。なので、今回ケンブリッジ研修に行き、ひろ子さんからいろいろな情報をいただき、さらに行きたい欲が増した。海外の大学に行くのは、尋常じゃないくらい大変ってわかっている。今の私の英語のスキルがどれくらいなのかも知っている。ひろ子さんは、それを踏まえたうえで、アドバイスをしてくれた。

ケンブリッジ研修は私にとって、大切な、そして大きな経験として残った。将来に生かしたいと思う。

ケンブリッジ研修 報告書

H2-2 小沼美希子

今回、学校で初めての試みとなったケンブリッジ研修に参加して感じたことは、経験することの大切さです。

この研修で私はたくさんのことを体験し学びました。それらはどれも初めてのことばかりで、自分はまだまだ経験したことのないことがたくさんあると改めて感じました。

例えば、キングスカレッジでの夜のミサでは、世界でも有名な聖歌隊の人達が歌はもちろんのこと、詩篇なども歌で交読し礼拝を進めていくということに驚きました。伝統あるオルガンに合わせて歌われた聖歌隊のハモリはとても美しく、とても感動的な瞬間を過ごしました。

2日目は午前中はこのプログラムしてくださった Peter さんの奥さんのひろこさんがケンブリッジ大学について説明をしてくださいました。31校の大学から成るケンブリッジ大学は文系から理系まで様々な分野において優れており、分野によって行くカレッジが決まっていると聞いて、各カレッジが特化した授業や教授（先生）がいて細かく教われるのだと思ってとても興味がわく説明でした。そして午後は、楽しみの一つでもあったパンティングでした。先生も含めた12人でボートに乗り込み、誰が漕ぐのだろうかと皆で待っているとイケメンのお兄さんが棒を持って乗り込んできたので女子は皆大騒ぎで「イケメン〜!」と言いながらテンションマックスで出発しました。乗船中に大粒の雨が降ってきてしまい少し残念でしたが、ケンブリッジの伝統を姿で伝えてくれるような素晴らしい建物を見物できてとても良い経験でした。乗る直前は、ぶつかったら転覆?など少し心配もありましたが経験したことによりパンティングというものがとても楽しいものだとなりました。ちなみに、あとから聞いた話だと、ボートを漕いでくれていた方たちはケンブリッジの学生ではないそうです。その後はみんなで近くの公園に行き、普段はなかなかできない学年や男女関係なくバレーをしました。これも楽しい思い出として私の心に刻まれました。

そして、この研修の本当の目的である English Lesson は 3日目から6日目の午前中に行われ、ケンブリッジの近郊にある3つミュージアムについて講義を受けました。講義はすべて英語で行われ、最初の2つのミュージアムについてはグループに分かれてプレゼンテーションを行いました。準備時間が少ない中で、空いてる時間を使ってグループで話し合い、英語訳を担当したり、パワーポイントを担当したりと役割分担をし発表に向け準備をしました。自分的にはあまり納得いくようなことはできませんでしたが、この苦い経験は今後プレゼ

ンテーションをするときには今回の経験を生かして、積極的に取り組みもつといいものができるようにしたいと感じました。

そして、経験というか実践という場面になったのは4日目のフォーマルディナーでした。午前中にナイフとフォークの使い方やスープの飲み方などを教えていただきましたが、これは立教と一緒にだから全然大丈夫だと思っていると、まさかの男女は交互に座るといふルールを説明されとても驚きました。そして男子は女子の椅子を引いて座らせてあげるというマナーも教わり、確かに社会に出てこんな礼儀正しい男性がいたらうれしくなるなと思わされることでした。

5日目の午後には、日本文化をもっと学ぼうということで茶道企画に参加しました。Peterさんとひろこさんの息子さんと娘さんが着物に着替えて最初から細かくデモンストレーションしてくださいました。私は、小学校のころ礼儀作法は6年間教わっていましたが、今回のようなしっかりとした茶道は初めての経験だったのでとても心にしました。

最終日の夜は、小林先生の娘さんがケンブリッジ大学の卒業生だったので嘉悦センターにきてくれて、実際に大学に入ったらどんな生活なのかや、イギリスの学校の制度についてなど彼女が経験したことを事細かく説明してくれました。講義の後に、個人的に質問すると快く答えてくださり、さらにケンブリッジ大学への興味が増しました。

私は、この研修に参加するまで日本の大学に進学しようと考えていましたが、この研修に参加してもともと興味があった理系に強いキングスカレッジに進学してみたいと思うようになりました。あんな広い敷地で、伝統ある大学で国際的に学ぶことができるなんてことはなかなか出来ないと思ったからです。またひろこさんにも、「日本の高校から海外の大学に行くのはとても難しいことで、今あなたたちがいる立教英国という環境は、海外の大学進学にとってもいい環境にあるのだから、せっかくのチャンスを逃さずに自分がケンブリッジにいることをイメージしながら今後も頑張ってください。待ってますよ」と言われ、私はその言葉に心を動かされました。

これからは、ひろこさんの言葉を胸に止めながら英語ももちろんほかのことに関してももっともっと向上心を持って取り組んでいこうと心から思った経験となりました。

今回、ケンブリッジ研修を経験できたことを先生方と両親に感謝して忘れずに胸に刻んでおきます。

ケンブリッジに行って

佐久間 悠生

今回のケンブリッジ研修は、僕にとって初めての研修だったので行く前から緊張と楽しみという気持ちがありました。ケンブリッジにつくとすぐに夕食で、日本食でした。ケンブリッジの食事は、一週間全部本当においしかったです。初日に学校の案内をピーターさんがしてくださり、とても親切で優しい方でした。そのケンブリッジ研修では、ピーターさんのご家族が中心に面倒を見てくださり、みなさんもプレゼンテーションをしたときにアドバイスをくださったり、ケンブリッジのことをいろいろ教えてくれたりしました。

授業は、全部プレゼンテーション式で、リテラチャー、ヒストリー、食べ物、イギリスのさまざまな文化、食事のマナー（フォーマルディナーのときの）などについて学びました。プレゼンテーション式なので、授業中の発言などはE.Cより少なかったですが、それぞれの個性的な授業は面白かったです。特に、食べ物についてプレゼンテーションをした先生は、実際に紹介した食べ物を持ってきて食べたり食べさせてくれたりして楽しかったし、みんなもすごい活気があって授業を楽しめました。授業をする部屋はすごくこだわっていて、広い教室を2個に分けることができます。さらに、いすにもこだわっていてアーティストの人にケンブリッジのために注文して作ってもらったそうです。ピーターさんは、なんともいえないくらい絶妙で、自慢のいすだといっていました。立教での白板は、紙でした。紙なので間違えたときどうするのかと疑問に思いましたが、ケンブリッジは、いろいろテクノロジーが進んでいるなと思いました。そして立教でもそうですが、先生がたはいろいろな面で生徒を最優先に考えてくれているんだなと思いました。

午前中は授業で、午後にはケンブリッジの町に行く機会がほぼ毎日ありました。午前中に先生に説明してもらったミュージアムに行って、そこで色々学び、それを翌日の授業でプレゼンテーションという形で発表しました。（2グループに別れてグループごとに発表しました。）プレゼンテーションをするというのも僕にとっては初めてで、どうやって画面に表示するやつを作るのかとか、文章とあう写真を探すというのはすごく大変で、難しいものでした。前日にみんなで必死に作ったりするのは、いい経験だったと思います。プレゼンテーションをした後には、立教の先生方も含めてだめなところの指示や、アドバイスをくれました。もちろんそのアドバイスには、声の大きさをもっと大きくするといっていました。そして、説明するとき、どのタイミングで画面を変えるかなどを事前に話し合っておく必要があったねなどと、すごく的確なアドバイスをもらいました。その次に、もう一個のプレゼンテーションもあったのでそこで改善できるところはみんな改善できていて、みんなもがんばっているなと思いました。

今回ケンブリッジに行って、本当に色々学びましたが、とくに思ったのは、言語が違って聞いていてもあまり理解ができないときに、つまらないと思ってあきらめて寝てしまったりぼんやりしてしまうのではなくて、がんばって英語を勉強し、理解して面白いとおもえるようになりたいと思いました。授業中に先生の言ったことに対してみんながわっらっているように、僕も理解できたらなとおもいました。なので、さらに英語を学びたいという意思が強まりました。今回の生活は、大学生になった気分ですごくいい経験でした。

ケンブリッジ研修 5月25日～6月2日

田中 遥香

5月25日(土)

私たちは約三時間かけてケンブリッジいった。学校は **Murray Edwards College** という大学で量は女子のみだった。学校につくと、まず学校を見学した。そこはたくさんの自然に囲まれていて、まるで外には家があり車が通っていないようなとても気持ちの良い場所だった。その後に夕食として日本食を食べた。メニューは、エビフライとカルフォルニア巻きとみそ汁だった。日本人のシェフが作ってくださり、日本に帰ったような気持ちになるほどおいしかった。その後は、アンパッキングなどをしなければいけなかったのも、自由だった。11時就寝だった。

5月26日(日)

朝食は8時からで、イングリッシュブレックファーストだった。そこは、バイキング形式となっており、メインからフルーツまですべて好きなものをとることができた。午前中はケンブリッジの町に出て買い物をした。午後は、ケンブリッジにある教会で礼拝を約一時間行った。礼拝は私たちがいつも行っている日曜礼拝と同じようなものもあれば、クワイアがただ歌を歌うのではなく文章を歌のようなものになっているような知らなかったことも経験できた。何ととっても、英語で礼拝をする機会はめったにないのでとても貴重な経験をすることができた。

5月27日(月)

今日からついに授業が始まった。初日の授業はケンブリッジ大学の説明を日本語で受けるということだった。ケンブリッジ大学はすべてで31校あり、それぞれ違う特色を持っていてとても興味深い話だった。ケンブリッジ大学は留学生がとても多いことが分かった。午後はパンティングを行った。船に乗った初めの時は天気が良かったが、途中からはあいにくの雨となってしまったが川から見る周りの景色がとてもきれいで気持ちがよかった。

5月28日(火)

午前中はある先生のプレゼンテーションを英語で聞くというものだった。英語での授業は立教でも受けているので初めてではなかったが、とても緊張した。内容は、午後に行く **Fitzwilliam Museum** の説明と、プレゼンテーションを作る・発表するにあたってのやり方の説明だった。ミュージアムの説明を受けることによって見るときの視点がとても違いとてもためになった。午後は、**Fitzwilliam Museum** に行き、初めて雪山に登山した人の生い立ちをパネルで見たりした。今日行ったミュージアムと明日行くミュージアムのプレゼンテーションをグループに分かれて作らなければならなかったのも、ミュージアムの隅から隅までしっかりと見るように心掛けた。

5月29日(水)

午前中は今日行くミュージアムの説明を昨日と同様に行った。今回は絵のミュージアムに行った。そこは大きい絵から小さい絵まで様々な種類の絵があり、中には写真を撮って

はいけないものもあった。そこでの絵は昔の政治状況を描いたものだったり、人物を描いたものだったり、戦争の様子を描いたり様々だった。その日の夕食はフォーマルディナーだった。ナイフアンドフォークなどのルールは立教の時と変わらなかったが、男の人が隣に座っている女の人椅子を引くなど新しい体験のものもあった。

5月30日（木）

午前中はおとといと昨日に行ったミュージアムのプレゼンテーションの発表会をした。私たちのグループは完璧には準備ができていなく発表が未完成のままで終わってしまっ、一回目は見てくださっていた方たちにたくさんの注意とアドバイスをいただいた。そのアドバイスを生かし二回目は、前を見て話す、声を張る、立ち方を気を付けるなどを改善して発表をすることができた。午後は、ジャパニーズカルチャーだった。茶道・津軽三味線・生け花があった。私は生け花を選択し一個の作品を完成させた。夜には津軽三味線の先生でもあり、ヨーロッパで唯一のプロの津軽三味線者でもある一川響さんの演奏を聴いた。三味線の音はとても良い音で心に残った。

5月31日（金）

午前中は午後に行く、Museum of Classical Archaeology の説明をプレゼンテーションで受けた。午後は、Museum of Classical Archaeology に行った。そこはすべて銅像のコピーでとても壊れやすいとのことだった。有名な銅像もあったり、知らなかったものや、とても大きい銅像などたくさんの種類があった。

6月1日（土）

土曜日は午前も午後もフリー時間だった。午後には小林先生の娘さんの遥香さんがケンブリッジ大学についてプレゼンテーションしてくださった。初日に受けたものとは違い、最近までケンブリッジ大学に通っていたということもありとても興味深いものがあった。

6月2日（日）

午前はフリーで、パッキングをした。午後は1時30分出発のコーチに乗り学校に帰った。

（感想）

今回のケンブリッジ研修では大学の生活に触れるという貴重な体験ができたとてもいい機会だった。毎日英語の授業を体験し、自分たちでプレゼンテーションを英語で作るなど仲間と協力することは大変でもあったがよい経験にもなった。ある一人の方が、立教は自分のしたいことができる学校であるとみんなを見ていて思った、と言われとてもいい学校に来たなと改めて実感した。ケンブリッジで学んだことをこれからの学校で生かしていきまた、自分のしたいことをたくさんしていこうと思う。

僕は今回のハーフタームにケンブリッジに研修をしに行きました。最初はあまり乗り気ではありませんでした。なぜなら、僕は今までハーフタームにホームステイをしてきていたので、のんびり休みを取るために過ごしていました。しかし、今回ケンブリッジに行って授業をやると聞いていたので、休めずに終わってしまうと思ったからです。そして、1 学期が始まってすぐにハーフタームはやってきました。

1 日目、その日はどんよりとした天気。（僕の中での天気）朝はいつも通り起きて、顔を洗い、礼拝をして、1 限と 2 限の授業を受けた。気づくと、あっという間に午後になっていた。そして、遂にケンブリッジに行くことになった。予定より 30 分早く出発することになり、少し焦った。なぜ早くなったかという、道が渋滞しているからだ。そして、バスに乗る。するとすぐに、出発し、立教の校門が見えなくなった。そこから、3 時間の長旅が始まった。半分くらいたった時、車は止まった。渋滞だ。そこから 30 分くらい渋滞にはまった。2 時間と少しでいったん休憩した。そしてそこからすぐにケンブリッジに着いた。荷物を降ろしてオリエンテーションを受けて、夕飯だった。夕飯のメニューは、なんと…エビフライ・!! 久しぶりの日本食だった。僕はエビフライを見た瞬間感動した。思はず涙が出そうになった。立教ではまともな日本食が食べられないからだ。そして食べた。それは、この世のものとは思えないくらいおいしかった。僕はその時何かを発見してしまった。それは、人間は美味しいものを長い間食べてないと、泣きそうなくらいおいしく感じるっていうことを。食後、寮の説明を受けて自分の泊まる部屋を見た。それはホテルのようでとてもきれいだった。そして 1 日目は終わった。午前中は、少し憂鬱だったけれども、ケンブリッジに着いたからはとても楽しかった。

2 日目、日曜日だったので、1 日フリーだった。朝食も 9 時だったので、朝も結構余裕があった。朝食はカエツセンター（1 日目の夕食を食べたところ）じゃなかったのも、あまり期待していなかった。そして朝食をよってもらった。スクランブルエッグの量が、多かった。しかし、ふわふわしていて、予想よりは美味しかった。そのあと、ケンブリッジの市街地に行ってショッピングした。ケンブリッジは服屋が多かった。しかしそれはほぼほぼブランド物でとても高かった。午後は、礼拝に参加した。しかし…。とても聖歌隊の歌がきれいだった。立教とはレベルが違った。礼拝のスタイルも歌が多く立教とは結構違った。

3 日目、今日から授業あったが、今日はケンブリッジ大学についての説明だった。日本語だったので理解できた。イギリスの大学の仕組みなどを学び、僕たちが今泊っているところは女子校ということや、ケンブリッジ大学は 31 のコレッジからできているなどのことも学んだ。午後は、パンティングをした。ケンブリッジに流れている川を使って、ケンブリッジを見回った。途中で激しい雨が突然降ってきてびっくりしたが、とても楽しかった。いろいろな景色が楽しめた。

4, 5 日目、僕は頭が痛く、めまいがして、鼻水が止まらなく、休みました。そのため何もできずに寝込んでいました。

6 日目、朝からプレゼン。大変でした。僕は 2 日休んでいたのも何も知らないままだ渡された紙をそのまま読んで終わりました。

7 日目、午前中は今まで通りの授業を行い、午後は、古代ギリシャなどに作られた像を見に行きました。安藤君が絵を描いていたのですがとてもうまく驚きました。いろいろな像があったのですが、大体の像がギリシャ神話に出てくる人物の像でした。

8 日目、ラスト 2 日になりとても悲しくなりました。“あれ？僕、初めの方と気持ち変わってない？”と、自分で思いました。そう。まさにその通りでした。最初はあまり行きたくなかったのに、最後には立教に帰りたくななくなっていました。人間の気持ちって怖いですね。土曜日は、1 日中ショッピングをしていました。しかし、あまりお金がなくほとんど何も買えませんでした。

9 日目、ついにラストの日。朝から寝坊をしてしまいました。（立教に帰りたくなかったのかな？）10 時にチ

チェックアウトをして、13時まで街に行き自由行動。お金がなく何もできずに終わりました。その後すぐに、立教につき、楽しかったハーフタームが終わってしまった。

今回のケンブリッジ研修で僕はいろいろなことを学びました。例えば、食事のことや、イギリスの大学のシステム、ケンブリッジ大学などのことを。僕は、この研修に参加したおかげで、少しイギリスの大学に興味を持ちました。次回も行きたいと思います。が、行けない。悲しいです。

ケンブリッジ研修についてのレポート

鵜野 太輔

僕は一学期のハーフターム中に初めてのケンブリッジ研修に参加しました。そこで学んだことや一日の流れなど感想も加えた上で書きたいと思います。

僕たちはケンブリッジのカレッジのひとつである”エドワード・マレー・カレッジ”にある嘉悦センターという施設の寮で1週間（土曜の午後から次の土曜の朝まで）を過ごしました。僕も驚いたのですが、日本と違ってイギリスの大学ではカレッジという寮みたいなのが何ヶ所もあって、その大学生は各カレッジを自分で選んで住むことが義務付けられています。僕たちが今回泊まったカレッジは実は女子寮で今回は特別に男子も泊まることができました。さすがってぐらいすごい綺麗でした。1人か2人ずつの部屋に分けられ、皆それぞれに鍵が渡されました。シャワールームも各部屋についていて毎朝ベッドを綺麗にしてくれるし、ホテルにいるかのようなでした。寮だけではなく、食事も充実していて、なんとそこに日本人シェフがいて、毎日美味しい日本食を出してもらいました。特に高野豆腐が海外で出たことに僕はまだすごい感動をしたのを覚えています。食べる場所は毎回決められていて寮の中でも三ヶ所も違うところで食べました。ひとつは日本食が出る嘉悦センターとひとつは朝食もでるエドワードカレッジの食堂。そして上品なフルコースがでるフォーマルディナー。フォーマルディナーのまえにはマナーの

生活面以外にも素晴らしかったことはたくさんあって、まず予定にすごい余裕がありました。1日の流れとしてはまず8時に朝食があって、10時から12時まで授業があります。毎日違う先生がいろんなイギリスの文化や歴史など教えてくれて、それについてプレゼンをするなど、アクティビティを多く取り入れた授業が多かったので飽きないし、授業があつという間でした。一番おもしろかったのがイギリスの食べ物の授業で、食べ方や作り方などをその場で実際にデモンストレーションみたいなのをしてもらって、おまけに授業でつくったものや使った食べ物はすべて試食までさせてくれました。めちゃくちゃ楽しかったです。

昼食はケンブリッジの街まで行って、そこで各自自由に食べることができました。一時間後ぐらいにはみんな集合して、ケンブリッジにある博物館やケンブリッジ大学の礼拝など毎日違うところへ連れてってくれました。3時ぐらいに見学が終わり、そこからは6時の夕食まで自由時間で街を満喫することができました。特に僕は服が好きだったのでケンブリッジでショッピングをずっとしてしまい、お小遣いがどんどんなくなっていきました。だから自由時間が多かったのは僕にとっては大きなプラスでした。

夕食は6時にあって毎日決められた場所で食べました。そのあとは自由時間でした。そして11時に就寝して一日が終わります。

今回のケンブリッジ研修に参加してぼくはアダムさんという今回の研修の手伝いや案内をしてくださった方と出会いました。アダムさんとはたまたま服の話で仲良くなり、色んな知識や経験など教えてくれました。このように新しく人と出会い、仲良くなることがどれだけ自分たちに必要なことでどれだけ自分たちに大きな影響を与えてくれるのかを強く気付かさせてくれました。つまり出会いの大切さについて今回の研修で大きく学べたと思います。